

図書館館内委員会だより

展示会開催委員会

毎年恒例の京都外国語大学図書館稀観書展示会を昨年(火)の10月23日(火)から10月29日(月)まで国際交流会館6階ユニバーシティギャラリーで、『日伊文化資料展示会「日本におけるイタリア2001年」を記念して』というテーマで日曜日も開館して一週間行いました。

昨年は日本のいたるところでイタリア関係の催しがあり、今まであまりイタリアに関心がなかった人もポツィチェリのヴィーナスに抱かれた日の丸のロゴマークに連れられて何か観にいかれたことと思いますが、いかがでしたか。

イタリアといえば一番先に何を思い出しますか。サッカー、パスタ、モードといろいろありますが、ルネサンス発祥の地であり15世紀には最も文化の栄えたところなのです。本学図書館の展示会もダンテ、ポツカッチョ、ガリレオなど中心に図書41冊とイタリア関係の古地図10点を展示しました。

毎年行っている展示会の入場者を統計で見ると、5年位前から入場者の傾向が少し変わって来ました。今までは入場者の過半数は学生でしたが、今年は一般市民の方が学生をうわまわりました。その理由はテレビや新聞などのマスコミに取り上げられたことが原因していると思うのですが、学生の入場者が過半数割れた原因を来年度の課題として考えなければいけないと思っています。

委員長 竹本 瞳



フォーラム実行委員会

今年度は「日本におけるイタリア2001年」を記念しての本学図書館の催し物の1つとして、同じ時期に開催されている稀観書展示会の最終日の10月29日(月)に、稀観書展示会場であります国際交流会館6階のユニバーシティギャラリーにて「イタリアに魅せられた理由」というテーマで行いました。

当日は、本学英米語学科の卒業生で映画研究家の鞆明浩氏と、本学教授の清瀬卓先生にご発表をお願い致しました。鞆明浩氏には、「イタリア映画発見の旅へ」と題して、イタリア映画の解説をビデオを使いながら非常にわかりやすく解説していただきました。また清瀬卓先生には、「イタリアとの出会い」と題して、自らのイタリアでの留学体験をもとに人と人との出会いがいかに大切であるか、イタリア留学で何を学んだかなどを発表して頂きました。お二人とも各々1時間ずつの発表でしたが、時間を忘れてしまうほど、熱のこもった発表でした。お二人のご発表の後「イタリア・あらかると」と題して、本学図書館のイタリア関係資料を主に図書館のホームページでの検索方法を中心に簡単に紹介致しました。ご来場いただいた皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

尚、昨年度と今年度のフォーラムは、図書館の展示会と一緒に参りましたが、今後は、出来れば以前開催したように学園祭協賛という形で学園祭開催期間中に行うことも考えていますので、来年度以降もどうぞよろしくお願いいたします。

委員長 栄 咲子

